

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300432		
法人名	特定非営利活動法人 三山の家		
事業所名	グループホーム 元気村		
所在地	埼玉県本庄市田中105-1		
自己評価作成日	平成23年1月28日	評価結果市町村受理日	平成23年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成23年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達のホームは「配慮するケア」を実践しています。ここでの生活は短いものです。ここを出れば施設か病院です。だからこそ、せめてここでの暮らしは「ゆっくり、のんびり、穏やかに」過ごして頂きたい。出来ない事が増えても、わからない事が増えても、その人らしく過ごして頂きたい。職員一同がそんな想いでケアに当たらせて頂いております。又、できるだけ薬に頼らず、食事での体質改善にも力を入れてます。野菜中心の食卓であり、「食を楽しむ」と言う気持ちで毎日バラエティにとんだものを提供させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲に畑や住宅のある落ち着いた静かな環境の中に建つ、1ユニット定員9名のグループホームである。門扉もなく、開放感のある建物内からは通行人や車の往来が見え、理念の「ゆっくり、のんびり、穏やかに」という生活が伝わってくる。管理者、職員は、入居者と共に生活し、笑顔が見られるホームにしたいという思いで、気付きや情報を常に共有し合い、入居者にとってより良い支援を目指している。食事は、健康面からも主食を玄米や麺類を中心とし、副食には野菜を豊富に取り入れている。味は勿論、調理にもアイデアや工夫を凝らし、一日の大きな楽しみと憩いの時間となっている。入居者の生活の様子を理解してもらえるように家族や市町村、運営推進会議等に資料を配布、送付し、透明な運営を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	つなげている 「ゆっくり、のんびり、穏やかに」の理念を職員全員が共有し、入居者様は勿論、ご家族様にとっても安心して住みなれた地域で生活できる様、ケアに当たらせて頂いている。	地域でもホームでもあくせくせず「ゆっくり、のんびり、穏やかに」生活出来るよう支援していきたいと、職員で作り上げた理念を随所に掲げている。出来る限り入居者のペースに合わせ、笑顔で過ごせるホームにしたいと話合い、共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	している 近所の方が野菜を届けてくれたり、地域のボランティアの方々が定期的に慰問に来て下さっている。また消防安全協会にも加盟させて頂いたり幅広い交流を図っている。	自治会、消防安全協会に加入し、除草等の活動に参加している。民生委員、ボランティアの定期的な訪問や、近隣住民と挨拶を交わし、野菜を差し入れてもらう等の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	している 毎月、広報誌等で情報を開示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	している 毎回、その時々々のホーム内の状況に則した話し合いを行い、ケアの向上に繋げている。	家族、市職員、職員、ボランティア関係者等を出席メンバーとして、奇数月の第二土曜日に開催している。ホームの取組み内容を議題とし、音楽療法や敬老会を組み合わせ、懇親と意見交換を図っている。欠席の家族、市担当課には報告書を届けている。	2ヶ月に1回の開催を全家族に案内し、多くの参加が得られている事は、大いに評価出来る。今後は、地域密着型サービスとしての役割を果たす為、地域住民や民生委員等身近な方の参加を得、会議をより充実させる事が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	している 事あるごとに市町村に連絡し、相談ののって頂いたり、アドバイスを頂いている。また、運営推進会議等、ご家族様に発送している書類も市町村に提示し、相互理解を深めている。	困難課題について情報交換し、相談、助言、協力等を得ている。運営推進会議に参加してもらい、ホームの取組みを説明し、家族の声を聞いてもらう事で理解が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	している 「身体拘束排除マニュアル」に沿って身体拘束を行わないのは勿論だが、心理的拘束も行わない様、言葉使い等にも細心の注意を払っている。	身体拘束、心理的拘束を行わない姿勢で取組み、一人ひとりのサインを出来るだけ早くキャッチし、寄り添い、自由な生活を支援している。玄関は入居者の状態に合わせ、安定している現在は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	している 職員会議内は勿論、日頃からこういった事が起きない様話しあったり、心にゆとりが持てる様、職員間の連携やコミュニケーションを密にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	している これに関連した入居者様もいらっしゃるので、日々の業務の中で情報を共有しあっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	している ご家族様のご理解を得られる様、そのつど努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	している ご家族様からの要望等には速やかに対応すると共に、書面等でも開示。また、運営推進会議等を利用し幅広くご家族様のご意見を伺える様、努力している。	意見、要望受入れポストを設置しているが、口頭で寄せられている。内容、回答は定期的な便り等で報告し、改善に努めている。又、運営推進会議での意見交換や、家族同士の懇親会で表出しやすい雰囲気を作り、家族の気づき等を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	している 日々のコミュニケーションは勿論、職員会議内でも各々の意見を聞き、より良い運営がなされる様、務めている。	職員全員が同じ立場、目線で意見、提案を出し合い、日々のケアが滞りなく推進出来るよう努めている。月1回の定期職員会議、及び、必要に応じた随時の話し合いで問題や対応等を協議し、現場に即反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	している 職員の努力をきちんと認め、個々の意見にも耳を傾け、日々改善への努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	している ホーム内の勉強会は勿論、地域内の研修や各種研修に参加させてくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	している 合同研修会を企画、参加させてくれたり、その他の研修にも参加している。その為、他の事業所の方々とも交流できサービスの質の向上に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	している ご本人様は勿論、ご家族様等からも幅広く情報を頂き、信頼関係の構築に努めると共に、ご本人様に安心して頂ける様、職員一丸となって努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	している十分な話し合いを重ね、少しでも安心して頂ける様、職員全員が一丸となって努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	している(上記同様)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	している 「介護」では無く「支援」と考え、入居者様から人としての生き方や家族の在り方等、様々な事を学ばせていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	している 毎月、担当職員が日々の状況等を手紙に書いてお知らせすると共に、ご面会にいらしたときなどに今後の方向性を共に考えて頂ける様、日々、努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	している 入所前から行っている趣味のお教室に通われている方もいる。過去から築き上げた関係が途切れない様、支援させて頂いている。	入居前の趣味仲間の訪問や教室に通う等、馴染みの関係継続を支援している。家族の協力で馴染みの理美容院へ通ったり、墓参りされる方もいる。家族、親戚の面会は、随時受入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	している 入居者様同士が関わり合い、支え合える様、職員が一丸となって配慮させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	している ご家族様は勿論、各事業所の方々とも連携し、連絡をとりあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	している 日々のコミュニケーションからは勿論だが、その時々での行動や表情などから、常にその方の心理を探り、ニーズの把握や介入を検討している。	生活暦、家族関係、生き方等を家族から聴取し、日々の関わりの中で観察し、意向を汲み取るようにしている。難聴やコミュニケーションのとり難い方の場合、動き、表情から察知したり、耳の傍で話し掛ける等、本人本位の対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	している ご本人様は勿論、ご家族様からお話を伺いながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	している ケース記録等を記入し、職員全員がそれらを把握し、情報の共有化に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	している 3か月に1度、担当職員がアセスメントを取り、職員全員でニーズや問題点を考えている。	状態安定時は3ヶ月毎に担当者がアセスメントし、他の職員の意見や気付きを取入れ、モニタリングし、計画作成者が作成している。見直しの際、面会時に家族から要望を聴取し、説明して共有と確認を図っている。状態変化時は、臨機応変に現状に即した計画変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	している 毎日ケース記録に個別の情報を書き込み、職員全員が情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	している そのつど考え、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	している 地元ボランティアの方々は勿論、民生委員さん、消防署等との連携が整っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	している ご家族様のご協力もあり、以前から通院していた病院等に通っていらっしゃる方も多い。また、連携医との協力体制も整っている。	かかりつけ医の受診は、家族同行で継続している。必要に応じて情報提供や同行支援も行っている。受診結果の情報、服薬表は双方で共有している。協力医は緊急時受診対応、歯科医は依頼すれば訪問診療が可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいない		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	している 病院サイドとも常に連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護職員がいない	医療体制がない為、重度化や終末期の受入れは不可である事を入居時に説明し、同意を得ている。穏やかに生活出来るよう、家族との情報共有と話し合いが必要であると、運営推進会議や文書でホーム側より伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	している 職員一人一人が常に危機感を持ち業務にあたっているのは勿論だが、シュミレーション等を繰り返し、実践に反映させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いない 火災に関しては訓練を行っているが、自然災害に関しては課題が残されている。	原則年2回、日中と夜間想定での避難訓練を消防署立会い、入居者参加で実施している。スプリンクラー設置工事の開始を予定している。地域の協力を得るまでには至らず、備蓄品も今後の課題と考えている。	火災・災害時、又、人員体制の少ない夜間に少しでも安全に避難誘導出来るよう自治会、運営推進会議等で協力を依頼し、近隣との連携を大切にしたい体制の構築が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	している 言葉かけや対応に関しては細心の注意を払い、誇りやプライバシーを損ねない様になっている。	全職員が「配慮するケア」に努め、自己決定しやすい言葉掛けやタイミングに注意し、嫌な感情が残らないよう配慮している。気付きに不足があった場合はその事例から学び合い、現場に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	している 自分の想いを表現しやすい環境となるよう、常に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	している できるかぎり、一人一人のペースで生活できる様、配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	している 一人一人に応じた配慮をさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	している その方の能力に応じ、自発的に食事準備等ができる様、配慮させて頂いている。	担当職員が直近の献立とのバランスを考慮し、主食は玄米・麺類を、副食は野菜を多く取入れ、アイデアと工夫を加え、調理、提供している。入居者はもやしの根取り、インゲンの筋とり、味見、片付け、下膳等個々の力を活かして関わっている。職員も談話しながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	している 食事に関しては一番力を注いでいると言っても過言ではない。栄養バランスは勿論、身体状況や口腔内の状況、好み、週刊等、常に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	している 毎食後は磨きを行うなど、随時介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	している 「できるだけオムツはしない」方向で支援させて頂いている。	基本的にオムツをしない方針で、一人ひとりのサインを把握し、支援している。生活リハビリを考慮し、歩いてトイレに行き、排泄するケアに努めている。便秘予防に運動、飲み物等を取入れ、薬に頼らない排泄に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	している 「できるだけ薬に頼らない」方向で、食材の工夫や就寝前のホットミルクの飲用、また、日頃の運動等に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その中で一人一人の入浴スタイルを守りつつ支援させて頂いている。	週3回の入浴を基本とし、気分や意向に沿えるよう午前と午後支援している。順番や気分の合う方同士等、自由にゆっくり楽しんで入浴出来るよう配慮している。菖蒲湯やゆず湯等季節の変わり湯も取入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	している 昼間から安心して過ごして頂ける様配慮すると同時に、就寝前にはホットミルクを摂取して頂いたり、夜間の巡視の際には職員は靴下で行うなど、徹底した配慮を積み重ねている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	している 服薬表をいつでも確認できる様にし、職員全員が薬に対する意識を持ち、業務に当たっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	している 音楽療法や大正琴、アニマルセラピーの慰等、皆さんとても楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一部の方のみしている 現在、体力や身体能力の低下から、外出が困難な方が多く、一部の方のみ支援を行っている。	体力や身体能力の低下から、入居者揃っての外出が困難になっている。家族の協力での散歩の理容院に行き、外食して来られる方もいるが、一時帰宅された際、階段に登れなくなってきていると指摘された方もいる。リハビリ支援を考えている。	職員体制や時間配分等を工夫し、外気浴や日光浴、短時間の散歩で気分転換を図る等の外出支援が期待される。又、下肢筋力低下予防に診療治療院と提携したりリハビリを検討中との事、本人、家族と話し、実施につながる事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方のみしている 「お金」その物が分らない方が多く、一部の方のみ行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の方のみ行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	している 「認知症高齢者為環境支援指針PAPE3」に基づき、BGMや採光等、環境整備には力を注いでいる。	廊下、リビング共にゆったりとした広さがあり、周囲に手すりが設置され、ゆったりと動ける。ソファが置かれ、寛げる場となっている。台所からは入居者の、リビングからは調理する職員の様子が分かり、居心地のよい空間となっている。季節が感じられる装飾や、入居者の切り絵、書道等の作品が飾られ、壁を彩っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	している ソファーや椅子等を設置し、居心地の良い空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	している ご家庭で使用していた物などをご用意して頂き、今までの生活空間に出来るだけ近づける様、努力している。畳も用意し和室対応もしている。	仏壇や机、コタツ、テレビ等馴染みの家具や大切な物が持ち込まれ、個々に居心地のよい居室が作られている。家族の写真を飾る、手作りの暖簾をかける、和室嗜好の方には畳を敷く等、自分の居室として安心して生活してもらえよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	している 入居者様一人一人に応じた対応を常に心がけている。		